（様式2）

平成　26　年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1591700149		
法人名	特定非営利活動法人　心つくし会		
事業所名	グループホームありがとうの家小新保		
所在地	新潟県五泉市村松1289番地1		
自己評価作成日	平成26年12月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/15/

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人新潟県社会福祉士会
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号　新潟ユニゾンプラザ3階
訪問調査日	平成27年1月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

緑に恵まれた豊かな自然環境の中で広々とした解放感のある事業所です。天気のよい日には建物全体に陽の光が燦々と降り注ぎ、ホールの窓からは白山を見渡すことができます。敷地内の庭では、四季の移り変わりを感じ、畑では野菜や花の成長、収穫を楽しみました。法人主催の納涼祭、芋煮会、敬老会等の施設交流、地域交流事業への参加を楽しみ消防訓練では近隣住民の方の参加、協力が得られました。利用者様にとって昔馴染みの商店街や大型スーパーが近いことから散歩や買い物に一緒に出掛けることも多く、馴染みの関係が途切れないように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

『グループホームありがとうの家小新保』の運営母体は、五泉地域で先駆的に高齢者介護や保育事業を展開してきた社会福祉法人であり、当事業所は法人で3つ目のグループホームとして開設した。

開設してまだ短期間ながらも、管理者、職員は「受容」「尊敬」「共生」という法人理念をもとに年間目標を立て、ケアと運営を丁寧に行うことで利用者が穏やかに過ごせ、安心感の持てるホーム作りに努めている。入居後も利用者が在宅生活時に培った地域との関係性の継続を支援し、利用者を中心とした地域との関係作りを展開している。また、地域住民との日常の関わりや、法人全体のイベントや事業所行事での交流を通じて、地域密着型サービス事業所として地域に根ざした事業所作りをしている。

食事時には、利用者と職員が協働で調理した美味しい食事を楽しみながら思い出話に花を咲かせ、笑顔と笑い声があふれていた。管理者と職員は、共に利用者の尊厳を大切にしながら温かい関わりをしており、利用者の気持ちに寄り添う言葉や態度が随所に見られた。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	内部研修、職員会議等で運営理念、運営方針について確認、共有し理念に基づいた支援に努めている。	「受容・尊敬・共有」という法人の理念に基づいて職員間で年間目標を立て、実践につなげている。研修や会議の場で理念について話し合う機会を持ち、自分たちの関わりの拠り所としながら、日々の支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人主催の地域交流事業への参加、地域商店街での買い物等で地域の方との交流を図っている。	利用者が今まで培ってきた地域とのつながりを大切にし、なじみの理容店や商店の利用継続を支援している。地域の方との日頃の挨拶はもとより、広報紙の回覧やチラシの配布で地域の方に事業所を知ってもらえるよう働きかけを行っている。また法人主催の行事の際にも地域の方と交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の取り組み、活動について広報誌で情報の発信に努め、地域の方から消防訓練に参加を頂き認知症の方の支援について理解を深めて頂いた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では現況や取組みについて報告し意見、助言を頂きサービスの向上に活かしている。	会議には利用者、家族、市担当者、地域包括支援センター職員、地域の民俗学研究家、地域代表、保育園園長、嘱託医関係者が参加しており、事業所からの事業計画や事故報告等に対して意見をもらっている。参加者から地域の情報を得たり、会議時に合わせて消防訓練を行って参加してもらうなど、事業所からの報告だけに終始しない会議への取り組みがなされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に毎回市担当者、地域包括支援センターの職員から参加をしてもらい情報の交換を行っている。	市の担当者とは、事務手続きや苦情対応などで随時相談を行っており、協力関係が築かれている。運営推進会議でも地域や他の事業所の情報をもらったり、また、行事にも参加してもらっている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中、玄関の施錠は行っていない。職員はマニュアルや研修により、身体拘束について確認、理解しケアに取り組んでいる。	マニュアルが整備されており、研修で身体拘束防止について学ぶ機会を設けている。また、事例に即して振り返りを行ったり、気になる言動は職員間で注意し合うなど、身体拘束のないケアに取り組んでいる。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	マニュアルや施設内研修、施設外研修で学ぶ機会を持ち職員は、虐待防止、精神的虐待について理解している。	利用者が不快に感じるような言葉遣いや振る舞い、表情になっていないかを、職員は日頃の行動に結びつけて虐待について考えている。管理者はケアにおける職員の悩みの相談にのるとともに、チームでの助け合いを大切にすることで職員のストレス軽減を図り虐待予防に努めている。	マニュアルを整備し、研修も行って虐待防止について学ぶ機会を持っている。今後はさらに、高齢者虐待防止関連法について掘り下げて学ぶ機会を持ち、事業所内のみならず家庭や地域での虐待防止にもつなげていくことが期待される。
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度について学ぶ機会は得たが、事業所で制度を利用される方はおられず、活用には至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分説明し理解を頂いている。質問、疑問等には随時回答し理解、納得を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者に関しての日々の様子や連絡事項について家族と密に連絡を取り合い意見、要望の言いやすい関係づくりに努めている。	利用者や家族が意見等を入れられる相談箱を設置し、契約時に説明している。利用者には日頃の関わりの中で意見を確認しており、家族には口頭や手紙で日頃の様子を伝え、意見や要望を寄せてもらうよう働き掛けている。また、家族会を設けて家族が思いを話せる場も作っているが、家族にはまだ遠慮があって運営に関する意見を表せるまでには至っていないと管理者は感じている。	開設して間もないが、丁寧な働きかけで利用者との関係作りに意欲的に取り組んでいる。意見や要望を引き出すための具体的な取り組みについて更に試行錯誤を重ね、得られた意見や要望が運営に活かされていくことを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や委員会会議の開催で、意見の出やすい環境、聞く機会を設け運営に反映させるよう工夫している。	毎朝のミーティングや毎月の職員会議、委員会などで職員の意見や提案を聴いている。会議の中で職員が担当の利用者の状況について報告するなど、職員が発言する機会を設けて意見を出しやすい工夫を行っている。代表者、管理者は共に職員の意見に耳を傾けており、職員の意見や提案が運営に活かされている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は個人面談等で、職員個々の現状について理解、把握に努め、やりがいのある職場環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は職員一人ひとりの力量に応じた研修に参加を促し、実践力の向上に努め働きながらスキルアップしようとする職員を応援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の同業者の連絡協議会に参加し意見、情報の交換を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、家族より基本情報シートを記入して頂き、要望、希望等を確認している。生活歴を十分把握、コミュニケーションを図りながら、安心につながる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っていること、不安、要望を傾聴し話のしやすい関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の思い、家族の要望を聞き、必要としている支援を見極め、事業所でできる支援とほかのサービスの説明を含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることについては積極的に参加を促し、不得手なことについては、一緒に関わりながら楽しみをもって参加して頂けるよう声掛けを行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	可能な限り通院の付き添い、面会をお願いし家族との関係、絆を大切にした良好な関係が継続するように支援している。	家族には通院の付き添いや外出、外泊などで協力を得ている。3ヶ月に1回職員の手紙や広報紙で利用者の状況を伝えて暮らしぶりを理解してもらっている。法人内の3つのグループホームで家族会を作っており、総会や懇親会を通じて交流を図り、関係を深めている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの友人の訪問等には、温かく迎えている。昔からの習慣、お墓まいりには同行し、いままでの生活や関係が途切れないよう支援している。	馴染みの店や理容店に行ったり、お墓参りに出かけている。その際には馴染みの方と話す機会もあり、入居後も今までのつながりが継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し必要時、間に入り利用者間の雰囲気や関係を、良好で安心なものにするよう支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了（退去）されたところで関係は途切れるが、その後について様子を伝えてこられた家族には温かく接した。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の関わりの中から本人の希望、意向の聞き取りを行ったり、気付いたことは記録として残し職員間で共有するように努めている。	利用者の少しの言葉や動作も気にかけて、思いの把握に努めている。入浴などで利用者と職員とが1対1になった際にじっくり話を聞いたり、利用者との関わりのなかでコミュニケーションを工夫し、思いや意向を理解できるように努めている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、本人家族にアセスメントシートの記入をお願いし、日々の生活の中で知り得た情報等は、ケースやシートへの記入で職員間の情報の共有に努めている。	入居時に利用者や家族に情報シートの記入をお願いしている。入居後は日々の関わりや家族との会話の中でこれまでの暮らしの把握に努めており、得られた情報は情報シート等に書き足して職員間で共有している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活のリズムや、心身の状態の把握に努めている。買い物、調理等、出来る事に参加して頂くように努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議、ケア会議等で個人の現状に即したサービスの提供ができるよう意見交換し、プランに反映させている。また参加できない家族には意向の確認を行っている。	計画作成担当者と利用者の担当職員が中心となり、利用者と家族の意向を聞いて職員間で話し合い、介護計画を作成している。かかりつけ医に意見をもらうなど必要に応じて関係者の意見も取り入れ、利用者の状態に即した計画となるよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、気付き等現状を個々のケースへ記入し、職員間で情報を共有し実践や介護計画の見直しに活かすよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診、外出等家族の対応が不可能な場合は職員が対応している。本人のストレス、家族の負担が増えないようその時のニーズに柔軟に対応するよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みの場所への外出支援、家族友人とのつながりを大切に、その関係性が良好に継続できるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までの主治医との関係は継続し、受診時には、日々の様子を口頭及び文書にて伝達し受診後の指示を仰いでいる。協力医に受診希望の場合、必要時職員対応にて適切な医療を受けられるよう支援している。	これまでのかかりつけ医の受診継続を支援している。緊急時は事業所の嘱託医を受診している。家族が付き添う場合でも本人の日頃の様子がわかるよう情報提供の文書を用意したり、必要に応じて職員が同行するなど、適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所に看護職の配置はないが、日々の中での情報、気付き等は受診時医療機関に伝達し指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は面会に出向き本人との関わりが途切れないように努め、担当医師、看護師、ケースワーカー、家族を含めた話し合いに参加し情報の共有に努めた。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、利用条件等で十分説明を行っている。重度化した場合については早い段階で家族と相談し特養への申込みを進めることになる。	事業所での看取りの体制はまだ整っておらず、行わない方針である。重度化して重要事項説明書にある入居の要件にかなわない状態になった場合は、他の施設への申し込みを支援している。これについては、入居時に説明し、状態の変化にあわせてその都度話し合うこととしている。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故に備えて内部研修、外部研修を行っている。AEDの研修を全職員が受講し実践に不安がないように訓練している。	法人研修や内部研修で心肺蘇生法（AED含む）や骨折、出血などの応急手当を学んでおり、また、研修委員会が中心となって感染症についての研修会も行っている。事故発生時の通報や召集についても職員間で確認し合っている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	各災害を想定した訓練を行っている。消防署立会いにて日中、夜間想定訓練では、地域の方からの参加、協力が得られた。	日中、夜間の両設定で避難訓練を行っている。訓練時には地域の方に手紙を配って協力依頼をし、近隣の嘱託医院の職員からも協力が得られている。非常ベルの音が事業所の外には聞こえず、直接職員の声で近隣に応援を頼む必要があるなど、訓練を通じて得られた地域の方の意見を参考にしている。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人を年長者として敬う気持ちを忘れずに、その方の誇りやプライバシーに配慮した言葉かけに努めている。	プライバシーの保護に関する研修を行っている。利用者への言葉かけの際は、本人の気持ちに配慮し不快な思いをさせないように気をつけている。やむを得ず利用者の近くで申し送り等を行う場合は、利用者名を伏せることを取り決めるなど、プライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりの中での表情や会話に耳を傾け、分かり易い言葉かけで、自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の生活リズムに合わせて対応するよう努めているが、職員の都合が優先する事もある。その際には、皆様にお願いし了承して頂くよう努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個性を大切に、身だしなみ、洋服選びも一緒に行っている。希望されれば馴染みの美容室へ外出支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の好みを把握し、旬のもの、地元の野菜、米を使い献立を立てている。調理の下ごしらえ、下膳などして頂いている。	利用者の意見を参考に献立作りを行っており、調理や盛り付け、後片付けなどで利用者に力を発揮してもらっている。また、味噌や梅干し、ちまき作りなどでは、材料の調達や仕込みなどで利用者の力を発揮する機会を多く作っている。1つのテーブルを利用者と職員が囲んで楽しい会話をしながらゆったりとした食事時間を過ごしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の習慣や、必要に応じた形態での提供を行っている。お茶以外にも好みの飲料が提供できるように用意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアでは、見守り、介助を必要とする方には対応している。就寝時には義歯の消毒洗浄を実施し、口腔内の保清に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に応じた排泄支援を行っている。個々の排泄パターンの把握、排泄表を活用しての声掛け、誘導を行っている。	利用者の状態に合わせて見守りや声かけなどの支援を行っている。排泄チェック表を活用して排泄のリズム作りをしたり誘導のタイミングをつかむなどして、排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便表での確認。野菜、乳製品の摂取、水分補給を促している。必要に応じて主治医と相談し下剤の投与、個々に応じた支援をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日、時間は決まっているが、希望があれば応じることはできる。ゆっくり入浴を楽しんで頂けるよう、湯の温度、量等に配慮している。	現在は曜日を決めて入浴を支援しているが、利用者の体調や発汗などの状況、また、希望に応じて、臨機応変に対応している。入浴のない日は気持ちよく過ごせるように希望者全員に清拭を行っている。	現在の曜日固定の入浴支援は、利用者の了解もあり円滑に行われている。今後、利用者の要望や状態の変化も予測されることから、事業所の日課以外でも柔軟な入浴支援ができる方法について検討していくことが望まれる。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して入眠できるよう温度、照明等、居室の環境を整えている。個々の習慣や状況に応じて休息がとれるよう支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ケース台帳に薬の処方箋を綴じ、目的、用法、作用、副作用について周知できるようにしている。内服後は状況観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の喜びと感じること、張り合い、出来ることの把握に努め、楽しみを持って日々、過ごして頂けるよう支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、スーパーへの買い物、ドライブ(足湯、紅葉狩り)等の外出支援をしている。法人の合同行事への参加も皆様、楽しんでおられた。	近所のスーパーへの買い物や利用者の意向に応じた散歩など、日常的に外出の機会がある。利用者の希望があれば遠方であっても職員体制を整えたり、家族の協力を得て外出を支援している。法人が行う納涼祭などの行事への参加には地域の方の協力が得られており、様々な機会を通した外出支援がなされている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金として、日常的な買い物等職員が同行して支援している方もおられるが、金銭管理のできる方には所持し、自分の好きな時に同行し支払もして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への電話を希望される方には希望に添った支援を行っている。携帯電話を所持されている方は、トラブルが生じないよう配慮している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間が居心地の良いものであるよう家具の配置に工夫をし、壁面飾り(利用者様作)を掲示したり、季節の花を飾り、季節感を採り入れている。窓から見える白山は好評である。	共用空間には、食事席のほかにソファーなど利用者がくつろげる席が設置されており、季節に応じた花や利用者の作品を飾って季節感を演出している。大きな窓からは、山や庭、子ども達の散歩する姿など戸外の様子を楽しむことができる。トイレや浴室は掃除が行き届き、室内の換気や加湿を小まめに行い利用者の健康面への配慮がなされている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓の他、ソファーセットを用意し、各々、自由に使って頂き、思い思いの利用ができる空間作りに工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの道具などをお持ちいただき、安心して生活して頂けるよう居室環境を整えている。	利用者・家族に、家具や写真など本人が安心できる馴染みのものを持ち込むことを勧めており、本人が落ち着ける居室作りがなされている。利用者がそれぞれの居室で自分のペースで落ち着いて過ごしている様子がうかがえた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホールの中は安全に移動できるように、テーブル、椅子を配置し、居室にはネームプレート、トイレには絵図の入った紙を貼り、わかり易いよう工夫してある。		